

<基本情報>

所在地：福岡県うきは市浮羽町

<農場概要>

- 茶園場7.2ha、全て有機 J A S 認証を取得
- 常時雇用2名、臨時雇用5名



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 昭和30年代に祖父が茶生産を開始。引き継いだ両親が農薬散布などの影響で体調不良となったことから、昭和48年に思い切って農薬を一切使用しない栽培方法に切り替えた。

- **平成13年（2001年）有機 J A S 認証制度の農産物及び加工食品の認証を取得**



<販売について>

- 荒茶の3割が卸販売、残り7割は自社で商品化し、自社販売店の駅、百貨店、インターネット及びイベント等で販売。
- 平成30年の売上高は**平成26年に比べ約1.5倍に伸びた。**
- 19品種を栽培しているが、5品種はブレンドせずに単品商品として販売。
- 平成28年から輸出にも取り組み開始。輸出先は、スイス、ドイツ、オーストラリアで輸出量も年々増加傾向。
今後は、商品の生産量にもよるが、少しずつ輸出先、輸出量を増やす方向。
- 単収は、慣行栽培の約半分、生葉で300kg～350kg程度。
病害虫の被害を受けた茶葉は、紅茶などの原料としている。



<病害虫対策・除草対策・土づくり>

- 病害虫対策
昭和48年当時は、にんにくや木酢を害虫予防として散布していたが、現在は何も行っていない。
- 雑草対策
春や秋は草刈り機などで刈り取っているが、夏場はつる性の雑草など、根や球根を1本1本手取りしている。
- 土づくり
堆肥に微生物を入れて発酵させる「ボカシ肥料」を手作業で施している。

<苦労しているところ>

- 夏場の手作業による草取りが一番大変だが、お客様に安心して購入して頂くためキッチリやる必要がある。

<今後の展開>

- 現状を維持していくことが大切である。新しいことにも挑戦したいが、今のところは、小規模な機材を揃え、古民家空間を利用してお客様に提供できるスタイルを検討中。



<基本情報>

所在地：佐賀県嬉野市嬉野町

<農場概要>

- 有機JAS認証ほ場4ha（茶）
- 蒸し製玉緑茶、煎茶、ほうじ茶、粉末緑茶、紅茶を使用した10商品を製造販売。



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 当茶園は、約30年前、祖父が茶本来の味と茶の効用を追求し、当時では珍しかった有機栽培に転換。
- 面積を2.7ha（H14）から4ha（R2）へ拡大
- **平成18年（2006年）に有機JAS認証取得。**



<販売について>

- ネット販売と量販店で生産量の5割を販売。
- 蒸し製玉緑茶をはじめ、煎茶、粉末緑茶、ほうじ茶、及び紅茶を製造販売。



<嬉野茶のPR活動>

- 地元の茶農家や旅館、窯元からなる「嬉野茶時（うれしのちゃどき）」の活動に参加。イベント「嬉野茶寮（うれしのさりょう）」では、地元老舗旅館にて、肥前吉田焼の茶器により、自らお客様に茶を淹れてもてなす。



<病虫害対策・除草対策・土づくり>

- 病虫害対策
地域の野草（よもぎ・どくだみ・杉・松・こしょう）などを熟成させた薬液を使用。
薬液は忌避効果が高く、害虫もほとんど殺さないため、地域の生態系への影響が少ない。
- 雑草対策
除草剤を使用せず、人力のみ。
- 土づくり
地域の副産物である米ぬか、おから及び水飴の絞りかすなどをブレンドし、520種の有用菌（好気性微生物）により発酵させた有機ぼかし肥料を使用。



<苦労しているところ>

- 人力での除草作業。



<今後の展開>

- 有機農業技術をさらに高め、収穫量の安定と品質向上を目指す。
- 多くの方にお茶を楽しんで頂き、地域の発展に結びつくような幅広い活動を行う。

【お問合せ先】 TEL : 0954-42-2358

ホームページ : <https://kitanochaen.com/>

<基本情報>

所在地：長崎県北松浦郡佐々町

<農場概要>

- 有機 J A S 認証ほ場約8.3ha（茶）
- 生産から製造・加工・販売までの一貫経営を確立



香港・米国での販売



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 昭和44年から消費者からの「無農薬の茶を作ってほしい」という要望に応え、全茶園で、無農薬栽培を始め、昭和50年からは化学肥料・化学農薬を全く使用しない有機栽培による茶の生産・販売を開始。
- **平成13年（2001年）に有機 J A S 認証を取得。**

<販売について>

- 有機栽培茶の特徴を活かして幅広く販路を拡大。
- 平成29年に香港へ輸出を開始し、同年、ニューヨークにおける店舗販売及びインターネット販売を開始し、海外展開。
- 消費者や取引業者に「茶摘み会」等を開催し、茶園の見学をしてもらうことで、有機栽培の信頼を高め顧客増加を実現。
- 顧客や企業が求める新商品の開発に取り組み「十宝草」のペットボトル等を開発。



【お問合せ先】TEL.0956-63-2707

会社ホームページ：<https://www.kitamuracha.com/>

<病虫害対策・除草対策・土づくり>

- 病虫害対策
食酢の葉面散布により害虫の忌避を図り、茶樹の耐病性の向上を実現。
- 雑草対策
草刈り機や人手による除草。
- 土づくり
新・改植には、土壌分析を実施し、堆肥、稲わら、カヤを投入することで、茶園の排水性・物理性を向上。
施肥回数を慣行栽培より多くすることで、肥料の吸収率を向上。



<苦労しているところ>

- 除草作業や整せん枝による耕種防除に長時間費やすこと。



<今後の対応>

- 地域に根ざした物づくり（茶づくり）が重要だと考えており、地域の農業者や商工業者と連携して組織（輸出グループ、有機グループ等）を作り、茶以外の農産物を含めた新たな商品開発や組織での販売を行うことで、地域を盛り上げて行きたい。

<基本情報>

所在地：長崎県五島市吉久木町

<農場概要>

- 有機JAS認証ほ場17ha（茶16ha、レモングラス1ha）
- 有機JAS未取得ほ場12ha（牧草）



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 10年前に台風による潮風害（塩害）に遭い、茶葉がひどく褐変し、茶園が枯れたようになった。
知人である有機農業者の助力により、複数の発酵乳酸菌をブレンドした有機土壌改良資材をほ場に投入したところ、翌年には、茶園が回復。これを機に有機栽培に転換し、**平成28年（2016年）に有機JAS認証を取得。**

<販売について>

- 販売部門として平成13年に「有限会社グリーンティ五島」設立。
- 生産量の8割は、京都の茶商（海外向け取扱が主）へ販売。
- 生産量の2割は、ネット販売や島内のスーパー等小売店への直接販売。販売額の6割を直接販売が占める。
- 緑茶、紅茶のほか、自生するヤブツバキの葉と、緑茶をブレンドした「つばき茶」や「ハーブ（レモングラス）」を販売。



<収量等について>

- 有機栽培に取り組んだことにより、300kg/10aであった2番茶の収量が2倍近く獲れることもある。
- 有機栽培をはじめる前は、防除費に数百万円要していたが、現在は、10万円程度で済んでいる。

【お問合せ先】TEL. 0959-72-4426

ホームページ：<https://greentea-goto.com/>

<病虫害対策・除草対策・土づくり>

- 病虫害対策
土づくりをしっかりと行うことで、作物が丈夫に生育するので、たまに食酢を散布している。
- 雑草対策
草刈り機及び手作業で除草。
- 土づくり
牛ふん堆肥及び豚ふん堆肥に発酵乳酸菌をブレンドし、茅を混ぜ込み、十分に発酵させ完熟した堆肥を10aに年3回（1t/回）程度散布している。



<苦労しているところ>

- 除草作業は、草刈り機及び手作業で行っているが、つる性の雑草は、なかなか根元から取れないところ。



<今後の展開>

- ネット販売等の直接販売の割合を増やしていきたい。
- 最近栽培を開始したレモングラスの他に、新たな作物栽培に挑戦したい。

<基本情報>

所在地：大分県臼杵市

<農場概要>

- 茶 4.5ha、全て有機 J A S 認証を取得（他に転換中ほ場1.4ha）
- 生産から製造・加工・販売までの一貫経営を確立



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 30年程前、先代が茶畑に農薬散布中、ホースがはずれ全身に農薬をかぶってしまい、体調を崩したことをきっかけに農薬を使わない有機茶栽培を開始。
- **平成13年（2001年）に有機 J A S 認証を取得(大分県第1号)**

<販売について>

- 自社工場、インターネットでの販売に加え、消費者に直接販売できるように地元デパートに直営店を設置。
- 平成19年から香港やアジア圏に向け輸出を試行したが、オーガニックの認知度が低い等、継続的な取引に至らなかった。
- オーガニック志向がより高い欧州へ販路を変更し、平成27年からドイツへ、現在はフランスに輸出している。



【お問合せ先】TEL. 0974-32-4219

会社ホームページ <http://www.tkhs-cha.com/>

<病害虫対策・除草対策・土づくり>

- 病害虫対策
 - ・ 夏場に多発する炭疽病やハダニ等の対策として、二番茶収穫後に深刈りをして古い葉を落とし樹の若返りを図っている。
 - ・ 農薬は有機JASで認められているものであっても、使用せず強いこだわりを持って無農薬栽培を実践している。
- 雑草対策
有機栽培では雑草処理が一番大変であり（特に幼木の頃）、地域のシルバー人材センターに除草作業を定期的に委託している。
- 土づくり
独自のノウハウで配合した油かすや魚粉かすなどの有機質肥料は分解が遅いため、成分が効いて欲しい時期に最大限の効果が出るように施肥のタイミングに気をつけ、早めの施肥を心がけている。

<苦労していること>

- 離農する農家から茶園等を引き受けるなど規模拡大を進めたいが、有機性を確保できるほ場がなかなか見つからない状況。

<現場の課題>

- 出荷先からJGAP認証取得の条件が出されたので、今年度中に取得予定。

<今後の対応>

- 主力商品である有機緑茶に加え紅茶やGABA茶、ゆずやかぼすを緑茶に配合したフレーバー茶など特色のある商品や、輸出も視野に**てん茶の加工機械を導入し有機抹茶など国内外へ展開**していきたい。

<基本情報>

所在地：宮崎県日之影町

<農場概要>

- 茶5ha、全て有機JAS認証を取得
- 生産から製造・加工・販売までの一貫経営を確立



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 現代表の父親が知人の農薬が原因と思われる体調不良を知り、昭和63年から無農薬栽培に取り組むが、収穫量激減となり一旦は諦める。しかし、無農薬への思いを捨てられず収穫量を度外視して平成4年（1992年）に再度、有機茶栽培を開始。
- **平成15年（2003年）に有機JAS認証を取得。**

<販売について>

- 量は年間12トンで殆どが釜炒り茶で他、紅茶、烏龍茶。
- 販売先は直販（製茶）が7割で、その他はJA（荒茶）等。
- 国内の人口減少による茶市場縮小が考えられる中、更なる販売拡大を見据え海外輸出にも取り組む。現在の輸出国はカナダ。



【お問合せ先】TEL.0982-87-2643

会社ホームページ<http://www.issin-en.com/>

<病虫害対策・除草対策・土づくり>

- 病虫害対策
 - ・天敵（寄生蜂）の発生により、害虫の被害を抑制。
 - ・病虫害に弱い品種（やぶきた）から病虫害に強い品種（さえみどり、かなやみどり）へ品種分散。
 - ・2番茶収穫後の強めの剪枝で害虫のついた枝を除き、害虫の発生を抑制。
- 雑草対策
 - 草堆肥を畝間に敷くことで雑草を抑制。
- 土づくり
 - 自家製発酵草堆肥やぼかし肥料を施用し、高品質な有機茶生産を実現。

<苦労しているところ>

- 特に急傾斜地での茶摘みや除草作業が重労働になっている。また、ここ2～3年は宿根性のヤブガラシの除草に苦労。

<現場の課題>

- 有機栽培による収穫量減収の抑制

<今後の展開>

- お茶を使用したスイーツ販売や、ティーパック商品の充実を思案中。病虫害対策と味の向上を図るため、微量要素の活用を検討。



<基本情報>

所在地：宮崎県五ヶ瀬町

<農場概要>

- 14ha：有機JAS認証ほ場 12ha
有機転換期間中 2ha
- 生産から製造・加工・販売までの一貫経営を確立

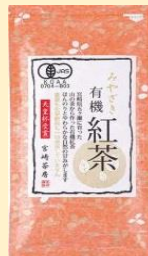


<有機農業に取り組むきっかけ>

- 知人の農業による事故を契機に、前代表が無農薬・無化学肥料栽培の必要性を感じ、五ヶ瀬の冷涼な気候や標高の高い立地条件を生かした有機茶栽培を昭和58年（1983年）開始。
- **平成13年（2001年）に有機JAS認証を取得。**

<販売について>

- 有機JAS認証品を販売。釜炒り茶が主体でその他、紅茶、烏龍茶、番茶。
- 販売先はネット販売・直売所・JA等。
- 今後、国内の人口減少による茶市場縮小が考えられる中、更なる**販売拡大を見据え海外輸出にも取り組む**。輸出国はドイツ、ベルギー、チェコ、スイス、カナダ、アメリカ。



【お問合せ先】TEL.0982-82-0211

会社ホームページ<http://www.miyazaki-sabou.com/>

<病虫害対策・除草対策・土づくり>

- 病虫害対策
 - ・病虫害に弱い品種（やぶきた）から抵抗性のある品種（みなみさやか、はるのなごり等）へ改植中。
 - ・施肥量を少なくすることで、病虫害の発生要因となる葉の密生を抑制。（標高約650mで冷涼地のため害虫は少ない）
- 雑草対策
 - ・草刈り機と人手による除草。（特に8月～10月）
- 土づくり
 - ・畝間に茶の刈り捨て葉を撒き豚ふん堆肥を施用。
 - ・追肥は肉かすとごま油かす。

<苦労しているところ>

- 有機栽培は除草が重労働になるため、自動草刈り機に関心。

<現場の課題>

- 有機栽培茶の流通量が増えることによる価格低下が心配。

<今後の展開>

- 消費者・バイヤーのニーズを把握し、販売先を多様化していきたい。また、14ha全てに有機JAS認証を取得し、有機茶の生産量を確保することで、輸出の拡大を目指す。



<基本情報>

所在地：宮崎県宮崎市高岡町

<農場概要>

- 有機 J A S 認証ほ場約4.4ha（茶）
- 地域の有機農業者（茶）8名（25ha程度）で、グループをつくり、生産技術向上の学習会等を実施。



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 父親は慣行栽培を行っていたが、自分の代になる頃、化学合成農薬に耐性がある病気の被害に遭ったことを契機に、元々、近所の有機茶生産に興味を持っていたこともあり、有機農業に取り組み始めた。
- **平成28年（2016年）に有機 J A S 認証を取得。**

<販売について>

- 生産から荒茶までは、各生産者が行い、販売はグループで取り扱うことを基本（一部個人による製茶販売もあり）とし、茶商（海外向け取扱いが主）へ販売。
なお、小浦製茶が販売業務を担っている。
- 慣行栽培から有機 J A S を取得すると10a当たり収入は向上するが、有機 J A S 転換期間中は、収量が減少し、単価は有機 J A S 認証に劣るため10a当たり収入は減少する。
このため、グループ全体でプール計算（有機 J A S 認証のキ口単価から転換期間中のキ口単価へ数百円補填）し、転換期間中のほ場を支援。
- 県内他地域にも取組を広げており、現在は、4地域65ha以上で取り組んでいる。

<病虫害対策・土づくり>

- 病虫害対策
チャノホソガ対策は、二番茶芽に産卵する前に収穫を終えるよう留意。
また、ダニ対策に、カブリダ二等の天敵を投入。
- 土づくり
肥料は、植物残渣をまず投入し、その後、魚かす等を含むぼかし肥料を投入。
土壌を確実に発酵させることにより、スリップス等の発生を抑制。



<苦労している（した）ところ>

- ミミズが多く生息する優良土壌が仇となり、イノシシがミミズを食べに来ることで、ほ場が荒らされる。
箱わなを設置しているが、生息数が多いため効果は限定的。

<今後の展開>

- 生産や販売等各部門を強化・効率化するためにも、高岡地域の8名で法人化を目指す。
- 飲用需要のみでは消費も限られるため、クラフトティー等新たな需要創出に向けた商品開発を検討。

<基本情報>

所在地：鹿児島県霧島市

<農場概要>

- 茶6ha、全て有機JAS認証を取得
- 生産から製造・加工・販売までの一貫経営を確立



<有機農業に取組むきっかけ>

- 平成5年（1993年）、茶の価格が低迷する中、茶に付加価値を付けるため、霧島山麓の冷涼な気候や標高の高い台地の立地条件を生かした有機茶栽培を開始。
- **平成13年（2001年）に有機JAS認証を取得。**

<販売について>

- 販売する全商品が有機JAS認証品。うち、約4割を海外へ輸出。
- 茶の市場が低迷する中、国内の茶市場では販売先の限界を感じ、海外輸出に取組む。
- 平成27年（2015年）、ドイツに「KIRISHIMA EU UG」（欧州支店）を設立。
- 販売は海外での日本茶ブームもあり、国内市況に左右されない安定した価格で取引を実現。
- 国内でも市況の3割増程度の販売価格を実現。



【お問合せ先】TEL.0995-45-0036

会社ホームページ<http://kirishimacha.web.fc2.com/index.html>

<病虫害対策・除草対策・土づくり>

- 病虫害対策
病虫害に弱い品種（やぶきた）から病虫害に強い品種（あさのか、かなやみどり）へ転換することにより、無農薬栽培を実現。
- 雑草対策
メインは草刈り機による除草＋人手による除草。
- 土づくり
茶のおいしさは肥料の投入量と比例するため、家畜糞に米ぬか・粃殻・菜種油粕・鰹ソリュブル・糖蜜を混ぜた自家製有機堆肥により、高品質な有機茶生産を実現。

<苦労しているところ>

- 有機農業は草との戦い。除草作業が軽減できるよう、茶園で使える自動草刈り機の実用化に期待。

<今後の対応>

- 31年度から近隣JAの茶部会（6名：16ha）と契約、22haに規模拡大し、有機茶の生産量を確保することで、輸出を拡大。



除草前



除草後



<基本情報>

所在地：鹿児島県熊毛郡屋久島町

(令和2年度九州地域未来につながる持続可能な農業推進コンクール九州農政局長賞受賞)

<農場概要>

- 経営面積6.5ha (全て有機JAS認証取得、栽培品目は茶)
- 2017年には、ASIAGAP (茶部門) 認証取得
- 従業員：7名 (代表含む)



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 屋久島で育った高校の同級生3人が島外から島に戻った際に、3人で出来る仕事を模索する中、島がお茶づくりに最適な土地であるとの話を聞き、1985年に会社設立。1.2haの農地を取得。

営農開始時から、有機栽培を開始し、**平成13年(2001年)に有機JAS認証を取得。**

<販売について>

- 静岡県の茶商との荒茶の年間契約により、安定した販路確保に努めつつ、一番茶は、自社ホームページを介して全国の消費者、飲食店、小売店等へ直接販売。
- 2012年に輸出開始し、2014年から本格的にEUの有機茶問屋へ仕上げ茶を輸出。EUオーガニック認証で販売。
- 平成10年に直売店を開設し、リーフ茶を中心に抹茶ソフトクリームや茶そば等の加工品を製造・販売するのに加えて、島内の他事業者の商品も取り扱うことで、島内の顧客及び観光客を確保。



<情報発信について>

- 2019年2月に、ドイツ、スイス等の計4都市で茶普及セミナー兼試飲販売会を開催し、現地の消費者や販売店とのつながりを強化する取組を実施。

【お問合せ先】TEL. 0997-43-5330

ホームページ<http://www4.synapse.ne.jp/hachimanjyu/>

<病害虫対策・除草対策・土づくり>

- 病害虫対策
農薬は一切使用せず、蓑虫等が発生した場合は、手作業で取り除く。
- 雑草対策
草刈り機や人手による除草。
- 土づくり
毎年、土壌診断を実施し、診断結果をもとに施肥量を調整。
堆肥は、山野草堆肥を使用している。
敷きわらを毎年行うことで、土壌生物の多様性確保に務める。



<苦労しているところ>

- ほ場周辺を杉林に囲まれているため、年に何度もある台風の上陸・接近に伴い、杉の葉が大量に茶畑に飛来するため、手作業での除去に手間がかかる。



<今後の展開>

- 世界自然遺産屋久島の自然を守りながら、人と自然が共生する社会を後世に残すことに貢献したい。
今後、島内外の有機農業者、有機関連事業者などとの連携を深め、屋久島のオーガニック化を目指す。